【質問５】　国は団塊世代が後期高齢者となる2025年に向けて、医療・介護等の需要が全国で大幅に高まり、特に地域での医療や介護の受け皿を急速に整備することが必要としており、特に「地域包括ケアシステム」と称して、在宅医療等、従来の病院だけでなく幅広い施設での受け皿づくりと、地域での関係機関・職種等の連携等を含めた体制づくりを求めています。その際には最も住民に近い市町村の役割にも強い期待が向けられています。この課題について、どのようにお考えですか。　（2000字程度までをめどに自由に記述ください。なお、字数は超過しても差し支えありません）

あさひろ　よしこ
朝広　佳子　氏の回答

高齢者が自由な選択や自己決定で、在宅での生活を継続していくためには、「高齢者の尊厳」、「ケアマネジメントの質の向上」、「フルサービスの体制構築」が必要であると思います。つまり、「高齢者が尊厳・個別性の尊重を基本に、出来る限り住み慣れた地域で在宅を基本とした生活の継続を支援することを目指す」、という地域包括ケアシステムの理念を具体的行動に移す事が重要だと考えます。そして、高齢者が自宅に居ながら２４時間を支援するフルサービスの体制作りが必要不可欠となるでしょう。

高齢者を支援しサポートする適切なケアマネジメントは、今後、ソーシャルワーク的支援を盛り込みつつ、精度を増す必要性があるでしょう。この体制を作るためには、ケアマネジメントに対する教育システムが重要になってくるだろうと考えます。

以上のように地域包括ケアシステムの構築を目指すにあたり、理念・体制・教育の構築が必要不可欠であり、かつ早急な取組みとして求められていると考えますので、ここに重点を置いて取り組んでいきたいと考えています。